インフォメーション

問い合せ・申込み：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 ／ FAX 022-268-4042　Mail sendai@sapo-sen.jp

仙台JOCSきってきっぺ　ちょっと。ボランティア

日　時：9月21日（土）14:00〜16:00
会　場：仙台市市民活動サポートセンター1階　マチノワひろば
内　容：地域や社会のために何かしたいけれど、「何ができるかわからない」「何から始めて良いかわからない」。そんな人にオススメです。仙台JOCS（公益社団法人日本キリスト協会海外医療協力会）の活動の一部である、使用済み切手の整理を通して海外の保健医療を支援する活動を、ちょっと。ボランティアで体験してみませんか。
参加費：無料
定　員：10名程度　先着順（9月6日から受付開始）
対　象：市民活動やボランティアに興味のある人。

奇数月最終金曜の夜はサポセンに集合! サポセン フライデー

仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）には、地域の課題解決や地域の魅力向上に取り組む人たちや、それを支える市民の皆さんが来館しています。
そんなサポセンユーザー（来館者）の皆さんが、気軽に集まり、交流できる場が「サポセン フライデー」です。
奇数月の最終金曜日の夜に、サポセンの1階マチノワひろばで開催。
団体でも個人でも、市民活動団体でも企業でも町内会でも教育機関でも、行政や外郭の人でも、サポセンのヘビーユーザーから、まだサポセンに入ったことの無い方まで、地域のことに関心がある人ならどなたでも参加OK!
みんなでワイワイ楽しく、交流しながら、顔見知りを増やし、様々な形でまちづくりに取り組む皆さんがつながる場になればと思います。
ぜひ、周りの方と、連れだってご参加ください。

9月のサポセン フライデー

日　時：9月27日（金）19:00〜20:00
会　場：仙台市市民活動サポートセンター1階 マチノワひろば
参加費：無料、申込み不要

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日 9月11日（水）、25日（水）

開館時間	月曜日〜土曜日 9:00-22:00
	日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日	毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）年末年始

〒980-0811　仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010　FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]https://www.sapo-sen.jp　[Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日〜2020年3月31日]

市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！
▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。

発行	仙台市市民活動サポートセンター
発行日	2019年9月1日
編集	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
デザイン	PEACE Inc.
編集人	太田貴　菅野祥子　松村翔子　水原のぞみ　小林正夫
発行部数	3000部
配布場所	市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと

サポセンは2019年6月に開館20周年を迎えました！ 祝 9

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと　2019 No.241

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）にいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

今月のワクワクビト

海辺のたからもの　代表
畠山 紳悟（はたけやま しんご）さん（25）

目の前の課題を価値に変える

「地域の課題も見方を変えれば“たからもの”になる」と話す畠山紳悟さんは、東北大学3年生。仙台市若林区荒浜海岸で海洋ごみ問題に取り組む、環境系学生団体「海辺のたからもの」で代表を務めています。東日本大震災後、人が少なくなった荒浜、日々海岸に打ち上げられるプラスチックやガラスなどのごみ。そんな地域の課題は、畠山さんの手によって、ごみをアクセサリーに加工するワークショップや海辺の環境を伝える講座や企画となり、荒浜に注目と賑わいを起こすための資源に変わります。
震災復興ボランティアで、荒浜再生の活動に携わり、5年間海辺の清掃活動をしてきました。無くならないごみを嘆くのではなく、「あるがままの海辺の姿に価値を見出して楽しく折り合う」。環境ではなく考え方を変えること、それが行動の原点となりました。
「荒浜は“たからもの”がある、楽しい場所なんです」。畠山さんは、地域課題との豊かな共存を描きます。

取材・文　関野頼利

環境系学生団体 海辺のたからもの

facebook@海辺のたからもの
ブログ https://umibenotakaramono.hatenablog.com
仙台市若林区の里海荒浜ロッジを拠点に、2018年7月に結成。東北、東京、三重などの大学生や社会人10人で「海洋ごみを集めて、加工して、発信する」活動をしています。イベントでのアクセサリーづくりワークショップや販売会、学校や市から依頼される環境セミナーの講師も務めます。最近行った海洋ごみの調査研究では、砂浜に5mm以下ほどのプラスチック粒子が大量に混入していることを発見。海辺の課題を“たからもの”に変える挑戦は続きます。

特集　各事業者の経験を集約させた仙台駅周辺の防災の取り組み

突撃レポート！　孤立する母親と赤ちゃんを救いたい

特集

地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

各事業者の経験を集約させた 仙台駅周辺の防災の取り組み

東日本大震災発生当時、仙台駅周辺には大勢の帰宅困難者（※1）が殺到し、各事業者も対応に追われました。その教訓を活かし、内閣府の示す指針のもと帰宅困難者に対応する協議会が仙台市で立ち上がりました。今回は、仙台駅と各事業者、行政による、防災、減災の取り組みを紹介します。

仙台駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会

帰宅困難者の安全安心につなげたい

仙台駅前商店街振興組合 理事長／協議会 会長	仙台ターミナルビル株式会社 ホテルメトロポリタン仙台	株式会社あいあーる（パレスへいあん）		東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス	仙台市危機管理室減災推進課 主幹（兼）			
総務部　危機管理室 保安管理	業務部　係長	料飲部　係長	総務部 総務課兼管財課	課長	地域支援係 係長	地域支援係主任	地域支援係主事
わたなべひろゆき 渡辺博之さん	しょうじ とみ お 庄子富夫さん	あ べ ふみのり 阿部史則さん	お のでらまさき 小野寺将喜さん	すずき けん た 鈴木健太さん	たかはしむねひろ 髙橋宗弘さん	おおともよしあき 大友嘉章さん	たかはしひでと 高橋英人さん	たかはし まさや 髙橋　雅弥さん

他、仙台駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会　委員（順不同、敬称略）

仙台駅前商店街振興組合、仙台駅東口商工事業協同組合、東日本旅客鉄道 株式会社（仙台駅）、公益社団法人 宮城県バス協会、仙台市交通局鉄道管理部、名掛丁商店街振興組合、仙台ターミナルビル株式会社（ホテルメトロポリタン仙台、エスパル仙台）、株式会社クロップス（AER管理組合）、株式会社ユアテック、宮城第一信用金庫、株式会社あいあーる（パレスへいあん）、公益財団法人仙台市健康福祉事業団（シルバーセンター）、学校法人東北学院（東北学院大学）、学校法人梅村学園（東北福祉大学）、日本私立学校振興・共済事業団（仙台ガーデンパレス）、株式会社法華倶楽部（ホテル法華クラブ仙台）、仙台国際ホテル株式会社（仙台国際ホテル）、仙台サンプラザ株式会社（仙台サンプラザ）、株式会社福田商会（ANAホリデイ・イン仙台）、株式会社ベルコ（シティホール仙台）、丸紅リアルエステートマネジメント株式会社（SS30）、株式会社清月記、国土交通省 東北地方整備局、宮城県警察本部警備部、宮城県警察本部地域部鉄道警察隊、宮城県警察仙台中央警察署、宮城県警察仙台東警察署、仙台市都市整備局総合交通政策部、青葉区役所まちづくり推進部、宮城野区役所まちづくり推進部、若林区役所まちづくり推進部、仙台市危機管理室減災推進課

各事業者の顔の見える関係づくり

仙台駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会（以下、協議会）は、東日本大震災後、市内で震度６弱以上の大地震等が発生し、交通機関が停止した際に、駅周辺の混乱を抑制することを目的に組織されました。協議会の活動は、駅周辺に居合せた交通機関の利用者や旅行者などの避難誘導や、帰宅が困難となった人の一時滞在場所（※2）を確保するため、駅周辺の商業施設や宿泊施設が連携して対策を取ろうという共助の取り組みです。協議会では、共通の対応指針に基づく災害時に必要な対策の検討と、定期的な避難実動訓練等の実施を通じて、顔の見える関係を築いています。2013年11月に協議会が発足して以降、2019年９月現在までに23箇所の施設が一時滞在場所として協力。仙台市危機管理室減災推進課の高橋英人さんは、「駅周辺の事業者様から賛同をいただいたうえで協定を締結しており、年々、ネットワークの輪が広がっています」と話します。

それぞれの経験を活かした対策の検討

2011年の東日本大震災直後、仙台駅周辺では交通機関の停止により大勢の帰宅困難者が発生し、多くの人が指定避難所である近隣の小中学校に避難しました。そのため、地域の指定避難所は過密状態となり、地域住民の避難が遅れたり、町内会・教職員が対応に追われたりといった混乱が発生しました。

駅周辺の事業者でも、様々な対応に追われました。例えば、ホテルメトロポリタン仙台は、１階から５階まで各所水漏れにより電気系統がすべて使用不可となりました。また、４階宴会場の絨毯が水浸しのため全損となりましたが、帰宅困難者にホテルロビー及びエスパル地下１階を緊急退避場所（※3）として開放。発災翌朝まで毛布・パン・水を概ね800人に提供しました。一方、冠婚葬祭業を営むパレスへいあんは、来館者約160人と従業員40人全員が怪我なく避難しました。館内設備の復旧後は社会貢献として「復興ランチ」と銘打った格安の食事を提供しました。こうした当時の経験を教訓として持ち寄り、どういった対策が必要か検討を重ね、訓練に活かしてきました。

避難訓練は、2014年から６回実施。2015年、仙台駅東口に新たにキャンパスを開設し、2017年に協議会に加入した東北福祉大学の鈴木健太さんは、「キャンパスのエレベーターや昇降機が使えない場合に、避難してきた要介助者にどういった対応が必要か、考えていきたい」と実際に訓練に参加した所感を話します。それぞれが経験した対応や浮き彫りになった課題を集約し、民間事業者等と行政が役割を分担しながら課題解消に向けた取り組みを進めています。

着実にステップアップする訓練内容

毎年改善を重ねてきた避難訓練。パレスへいあんの小野寺将喜さんは、「外国人の方への対応など、課題はまだまだあるが、年々精度は上がっています」と手応えを感じています。仙台ターミナルビル株式会社の庄子富夫さんは、「今は手探りのものも多いが、よりスムーズで実効性のあるやり方を実践していきたい」と話します。

帰宅困難者対策は、自らを守る自助の取り組みはもちろん、互いに助け合う共助の取り組みにつなげていくことが大切です。協議会会長の渡辺博之さんは「駅を利用する皆様の不安をできるだけ解消していきたい」と前向きです。東北最大の駅である仙台駅。発災による交通機関の停止に伴う混乱を抑制し、交通機関の利用者や旅行者など、一人ひとりの安心安全を守るために、今後も協議会では対策の検討と訓練を続けていきます。

（取材・執筆　嶋村咸臣）

※1　帰宅困難者：大地震等の大規模災害の発生により通常の交通手段が途絶した際、自宅が遠距離にあるなどの理由で徒歩での帰宅が困難な人。
※2　一時滞在場所：駅周辺等の帰宅困難者を一時的に滞在させる場所。帰宅に必要な交通機関運行情報などを提供する。
※3　緊急退避場所：大震災等の発生直後に、落下物などから身の安全を守るため、施設や一時滞在場所の安全が確認されるまでの間、緊急に避難する場所。

● 仙台駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会　事務局
仙台市危機管理室減災推進課地域支援係 〒980-8671 仙台市青葉区国分町３丁目7-1
TEL　022-214-3048／FAX　022-214-8096

活動に役立つ書籍をご紹介します

お役立ち本

魔法をかける編集

著者：藤本智士　発行所：株式会社インプレス

編集者というと漫画や雑誌といった文章を扱う仕事をイメージしますが、本書では、それだけではなく「町」や「商品」等を、メディア＝「編集する媒体」として説明します。編集力は「メディアを活用して状況を変化させるチカラ」だと著者は言います。編集の経験を積みながら、冒険の旅に出かけるゲームのように、読み進めることができるのも本書の面白いところ。編集という魔法を使いたくなる一冊です。

活動を始める一歩を応援します

コトハジメ

子どもの病気に付き添う家族をサポートする「第二のわが家」ボランティア募集中

ドナルド・マクドナルド・ハウスは、子どもの入院・治療に付き添う家族のための滞在施設です。運営は100％の寄付と、地域のボランティアによって支えられています。ボランティアの活動内容は、受付、清掃、ベッドメイク、事務作業などで、2週間に1回、約3時間程度の活動時間です。希望に応じて調整もできます。自分の得意分野を活かして活動してみませんか。

問い合せ：〒989-3126
仙台市青葉区落合4-5-3
TEL 022-391-1233
FAX 022-392-5535

市民ライター **鈴木はるみ**さんの突撃レポート！

取材団体名 / **赤ちゃんポストと子どものいのちを考える会@sendai**

孤立する母親と赤ちゃんを救いたい

連絡先　発起人　東田美香　Facebook @akachanpostsendai　Twitter @akachansendai
TEL 090-6781-9892　Mail akachanpostsendai@gmail.com

▲2ヵ月に1回程度開催される勉強会では、大勢の参加者と問題意識を共有します。

「なぜ、赤ちゃんポストがあるのでしょう？」赤ちゃんポストと子どものいのちを考える会@sendai（以下、会）の発起人、東田さんは私たちに問いかけます。赤ちゃんポストとは、親が養育できない赤ちゃんを匿名で預けることができるシステム。日本には熊本県の慈恵病院にしかこのシステムはありません。世の中には、望まない妊娠、貧困など様々な理由で、生みの親が育てられない赤ちゃんがいます。また、生みの親が周囲に相談できずに孤立し、我が子を死なせるケースもあります。仙台市内でも2019年1月に0歳児が低栄養で衰弱死し、6月には2歳児が放置され死亡した事件が発生したことは記憶に新しく、決して遠い世界の出来事ではありません。

東田さんは、「予期せぬ妊娠に悩む女性と赤ちゃんを救いたい」と、2019年4月に会を立ち上げて以降、「赤ちゃんポスト」を切り口に、8月までに計4回の勉強会を開催。皆でこの問題を考えるきっかけにしようと、団体名にも「赤ちゃんポスト」を冠しました。

現在の日本では、保護された子どもの多くは乳児院や児童養護施設で暮らします。「特別養子縁組制度の利用が増えれば、より多くの子どもを家庭的環境のもとで養育できる」。東田さんは赤ちゃんを助ける支援の1つとして、特別養子縁組のあっせん団体の立ち上げも展望しています。また、望まない妊娠という事態を発生させないよう、女性だけでなく男性への性教育にも力を入れる考えです。「やることは山積み。今後の人生は、これらの取り組みに捧げたい」と、東田さんは固い決意をにじませます。